

下呂生まれ 味な新米品種

「龍の瞳」に 熱い視線

岐阜県下呂市で生まれた米「龍の瞳」が熱い視線を集めている。自然の突然変異で登場したが、県外に広く知られるまでに成長し、飛騨地方の稲作再生への夢も膨らむ。人気を秘密を追った。

(萩原通信局・福本雅則)

「龍の瞳」は下呂市一粒が輝き、甘さと粘りの倒れにくさも栽培に萩原町宮田、元東海農政局長今井隆さん(五三)方の水田で八年前に見つけた。コシヒカリの稲の中に背の高い二株があるのに気づいた今井さん。種もみを翌年植えたら、太くて力強い株が育った。

粒はコシヒカリの五倍もある。「二粒



コシヒカリと「龍の瞳」の粒を並べて見せる今井さん

「龍の瞳」は一粒が輝き、甘さと粘りの倒れにくさも栽培に萩原町宮田、元東海農政局長今井隆さん(五三)方の水田で八年前に見つけた。コシヒカリの稲の中に背の高い二株があるのに気づいた今井さん。種もみを翌年植えたら、太くて力強い株が育った。



「龍の瞳」の視察に訪れた愛知県の生産者ら。昨秋、岐阜県下呂市萩原町で

だ。四年前から量産と育成に乗りだし、専念するため昨年三月に農政局を退職した。名前は「稲作に欠かれない水の神様である龍神と瞳のような粒」から付けたという。

団体や個人でつくる「龍の瞳」の生産組合と契約する形で生産。昨年と一昨年には全国的なコンテストやコンクールで頂点に立ち、八から約六十に増え、今井さんが目指して

「龍の瞳」は現在約560種で、毎年30種ほどが加わっている。1割程度が「龍の瞳」(登録名・いのちの志)など自然に生まれた種。新品種ほとんどは人工交配か放射線照射による突然変異だが、自然界でも起きる。問い合わせ先は、合資会社「龍の瞳」(電話0576(54)1801)。

突然変異だけど… 大粒、美味で高評価

「龍の瞳」は低農薬栽培だが、今井さんは「まだ発展途上」と無農薬を研究。その先に「龍の瞳」の利益を資金に山へ広葉樹を植える活動を思い描く。「山が豊かになれば川や水田の環境も良くなる。自然を再生し地域の魅力を高めたい」

「安全でおいしい米作り」にこだわりたいと意気込む。「龍の瞳」は低農薬栽培だが、今井さんは「まだ発展途上」と無農薬を研究。その先に「龍の瞳」の利益を資金に山へ広葉樹を植える活動を思い描く。

いるのは、地域の水田再生と自然の生態系を壊さない米作り。方向性は生産者の意識にも浸透している。過疎が進む飛騨地方は耕作放棄が深刻。生産意欲を高めるため、組合加盟者から買い上げる価格を一般品種より五割ほど高とした。その一つ、農業生産法人「まんま農場」(高山市上宝町)も休耕田を借り上げて栽培。「安全でおいしい米作り」にこだわりたいと意気込む。



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

ガラスが割れたら、
タケジン。



竹基板硝子株式会社
0120-663-163

紙面から

ガソリン「値下げ」戦々恐々

- 2 高嶋ちさ子さんに聞く
- 5 常葉菊川 連勤の夢散る
- 3 コーラン 批判映画発表
- 10 ライフで母校にお別れ

- 4 文化
- 5 小説
- 7 街角新風